

CIRSE (Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe) は、ヨーロッパにおける最大かつ最も歴史があり、IVRist にとって特別な学会の一つと思う。今回は、スペインのバルセロナ国際会議場で開催された CIRSE 2019 に、小金丸先生、田上先生と参加させていただいた。



当院からの発表を紹介する。

小金丸先生 “Management of uterine fibroids: focus on utero-ovarian anastomosis of interventional procedure” 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓で卵巣動脈と子宮動脈の吻合にフォーカスした教育発表と、“Internal coil packing technique for amplatzer vascular plugs” 塞栓物質の一つであるプラグ内をコイルでパッキングするという発表。プラグ内にコイルを充填する事で、限られた狭い範囲でもより強い塞栓効果が得られるというもの。（既に論文になっています。どうしたらそんなに早く書けるのでしょうか。）

田上先生 “Radiotherapy concomitant selective transarterial Cisplatin infusion therapy (RADPLAT) : clinical results evaluated with anatomical and technical aspects.” 喉頭癌に対する放射線治療併用の選択的シスプラチン動注療法について上喉頭動脈の血管解剖と技術的側面から臨床結果を評価した発表。

久原 “Management of transcatheter arterial embolization for frozen shoulder: focus on anatomical findings” 難治性肩関節痛(五十肩)に対する経動脈的塞栓術における血管解剖についての発表。ありがたいことに Cum Laude をいただいた。海外で肩関節痛への血管内治療に注目が高いこと、何よりも小金丸先生、安陪先生のご指導、素晴らしいイラストを描いていただいた田上先生、皆様のおかげです。



他、解剖や手技などの教育的発表から、X線視認性を有する新しい球状塞栓物質の報告や、膵癌への動注リザーバー、リアルタイムでの放射線被曝モニターなどの新しい報告を知ることができた。(英語が聞き取れなくても、画像という共通(言語?)があることは有難い。)この経験が、今後の臨床や研究に何かしら還元できるよう頑張りたいと思う。



会場のあるバルセロナは、過ごしやすい気候、優しい人々、素晴らしい建築、新鮮な魚介やお肉、食事は何でも美味しい、という最高の場所だった。

@小金丸先生行きつけの

何でも美味しいシーフードのお店

(大分大学の丸野先生、カウンターで隣だったスペイン女性と)

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった医局の先生方、同門の先生、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。